

①大滝ダム水源地域ビジョンの策定背景

ダム本格運用後10年経過しますが、水源地域ビジョンは、和歌山市等の受益地で協力体制が整わなかったこと等から未だ策定されていませんでした。また、水源地域ビジョンが未策定のダムは128ダムのうち、4ダムのみという状況です。

川上村等による交流プログラムの他、吉野川・紀の川流域協議会の活動等も行われており、水源地域の持続的な活性化と流域圏の発展を図るため、これらの取組を継続・展開する水源地域ビジョンの策定・推進が必要です。

②大滝ダム水源地域ビジョン策定の流れ

大滝ダム水源地域ビジョンの策定に向け、令和6年度8月より、事務局会議・学識者ヒアリング・策定準備会等を行い、水源地域である川上村をはじめ、学識者、関係機関とビジョンの基本構想・施策内容・推進体制・推進スケジュール等について意見交換・協議を進め、ビジョン冊子の作成を進めてきました。

【大滝ダム水源地域ビジョン策定の流れ】

	R6年度			R7年度			
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
①事務局会議		ビジョン構成案の確認		施策メニュー等	施策メニュー推進体制等	全体	ビジョンの全体最終確認
②学識者ヒアリング等	ビジョンに期待することの確認		ビジョン構成案についての意見聴取	ビジョン施策メニュー・内容についての意見聴取			ビジョンの全体最終確認
③策定準備会		策定体制・検討スケジュール、ビジョン構成案についての意見交換	①3/25		②7/22	③9/30	④12/16
④策定委員会				施策体系・施策メニュー・内容についての意見交換		ビジョンの推進体制、推進スケジュール等の確認	
⑤ビジョン推進						ビジョン制定(令和8年2月10日)	

③大滝ダム水源地域ビジョンの背景(水源地の取組み)

吉野川の源流域にある川上村は、“かけがえのない美しい森と水”とともに、豊かな暮らしを育むため、全国に向けて「川上宣言」を発信しました。吉野川(紀の川)源流に位置する村として、人工林・天然林を含む山を守ることで、命の源たる水を守るという使命を全うするとともに、第6次川上村総合計画の「いつまでもみんなが誇りのもてる水源地の村づくり」を目標に水源地の森の保全や和歌山市との「水源地保護に関する協定」の締結、水のつながりプロジェクト等さまざまな取組みを展開しています。

川上宣言

- 私たちが川上は、かけがえのない水が作られる場に暮らす者として、下流にはいつもきれいな水を流します。
- 私たちが川上は、これから育つ子ども達が、自然の生命の躍動に素直に感動できるような場を作ります。
- 私たちが川上は、自然と一体となった産業を育て山と水を守り、都市にはない豊かな生活を築きます。
- 私たちが川上は、川上における自然との付き合いが、地球環境に対する人類の働きかけの、素晴らしい見本になるよう努めます。
- 私たちが川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値に触れ合ってもらえるような仕組みづくりに励みます。



水源地の森



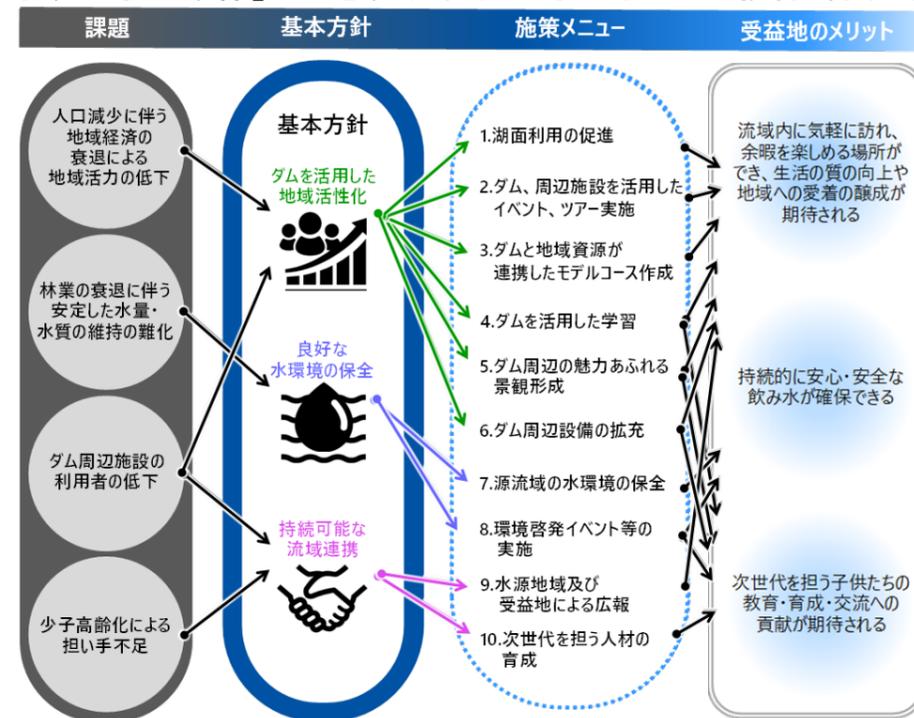
和歌山市との協定



水のつながりプロジェクト(おかげ米贈呈式)

④大滝ダム水源地域ビジョンの基本構想

水源地域である川上村は、「地域活力の低下」、「安定した水量・水質の維持の難化」、「担い手不足」等の課題を抱えており、ビジョンではそれらの課題の解決に向け、基本方針と各基本方針に対する施策メニューを設定しました。これらの課題を解決することで、受益地では「生活の質の向上や地域への愛着の醸成」が期待され、「安心・安全な飲み水の確保」ができ、「次世代の子どもたちの教育・育成・交流への貢献」が期待されます。



湖面巡視体験の継続・発展



ダム周辺設備の拡充



水源地の森林保全・再生活動の継続



水のつながりプロジェクトの広報・展開

【具体的な施策の例】

⑤策定後のビジョンの推進体制・推進スケジュール

ビジョンの実効性を確保するため、「大滝ダム水源地域ビジョン推進連絡会(仮称)」を原則年1回開催し、各施策メニューの実施主体から、施策メニューの実実施計画、進捗状況、課題を共有するとともに、意見交換、アイデア・情報共有を行います。また、「大滝ダム水源地域ビジョン委員会(仮称)」を原則2年に1回開催し、ビジョンの進捗状況の確認を行うとともに、ビジョンの見直しなど、重要事項の協議や検討を行います。

ダムを活かした水源地域の活性化に向けて、短期的には、既存活動を継続し、中期的には、新規活動のうち、ハード整備を必要としない施策を実施し、長期的には、新規活動のうち、ハード整備を必要とする施策を実施します。

【推進スケジュールの例】

施策	施策内容	短期(1~2年)	中期(3~4年)	長期(5年~)
4.ダムを活用した学習	(9) ダム、周辺施設を活用した学習	既存活動の継続		
	(10) ダム見学新聞コンクールの継続	既存活動の継続		
	(11) ダム湖周辺への植樹・景観整備	既存活動の継続		
5.ダム周辺の魅力あふれる景観形成	(12) 各見晴らしスポットに必要な環境整備			見晴スポットの環境整備・情報周知
	(13) 環境整備		事業化に向けた検討・調査	周辺施設の拡充・整備管理システムの整備

大滝ダム水源地域ビジョン委員会(仮称) ※原則2年に1回開催
 役割: ビジョンの更新内容の確認・承認
 参加者: 川上村、紀の川ダム統管理事務所、奈良県、和歌山県、和歌山市、橋本市 ※首長

策定・審議・答申 ↓ ↑
 ・ビジョンの進捗点検
 ・ビジョンの見直し等の重要事項の協議や検討

大滝ダム水源地域ビジョン推進連絡会(仮称) ※原則年1回開催
 役割: 施策メニューの実実施計画・進捗状況・課題の共有、意見交換、アイデア・情報共有等
 参加者: 川上村、紀の川ダム統管理事務所、奈良県、和歌山県、和歌山市、橋本市、施策メニューの実実施主体の団体・企業等 ※主に大滝ダム水源地域ビジョン策定準備会メンバー

【施策メニューの実実施主体】
 ① 施策メニューの進捗状況・今後の課題、実施計画等報告

② 実施計画に関する意見交換、アイデア・情報共有

【施策メニューの実実施主体】
 ③ 施策メニューの実実施・改善

【推進体制】